

裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑（三訂稿）

—明治警察史の一齣—

（令和 4（2022）年 8 月 7 日（日）現在）

（補正経緯）

HP 初出：平成 22（2010）年 1 月 23 日（土）初稿作成
平成 24（2012）年 9 月 25 日（火）改訂稿作成
平成 31（2019）年 1 月 31 日（木）再訂稿作成
令和 4（2022）年 8 月 7 日（日）三訂稿作成
（レイアウトを変更するとともに、一部補正、追加）

〔目 次〕

1 はじめに	1
2 関係文献抄	2
【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧（抄）	4
【関連事項】	5

1 はじめに

湯目補隆氏（1858～1936）は、ドイツ語の他に法医学についても精通していた¹。同氏は、明治 9（1876）年 3 月警視医学校²貸費生徒となり、明治 11（1878）年 3 月の同校廃止とともに、東京大学医学部予科（予科 5 年、本科 5 年）に転じ、2 年研鑽を重ねた（中退か？）³という。

本稿では、警視医学校及びその前身の裁判医学校関係文献の一端について言及しておく

¹ 湯目補隆氏については、本HP別稿「湯目補隆氏関係資料一斑—日本統治下台湾警察史の一齣—」（HP 初載：・平成21（2009）年10月29日（木）初稿作成、逐次改訂中）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yunome001.pdf>〉、

同「佐倉孫三及び湯目補隆両氏の足跡について—領台初期の日本人関係文献—領台初期の日本人関係文献—」（HP初載：・平成22（2010）年6月5日（火）初稿作成、逐次改訂中）

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakurayunome.pdf>〉各参照。（平成31年1月31日一部修正）

² 明治 8（1875）年 9 月 24 日裁判医学校創設、同年 12 月 27 日裁判医学校を警視医学校に改称、当初：5 年制 → 後、正則課程：予科 3 年、本科 3 年の 6 年課程で、卒業生には、「裁判医学士」の称号が与えられる予定であったという。なお、変則生もありとの由。

³ 上村直己（1939～）「警官練習所の訳官たち」『日本古書通信』第677号（昭和60年12月号、同年12月15日刊）3～5頁。本HP別稿「明治中葉警官練習所訳官久松定弘等及び筆記者井土経重検討一斑—明治警察史の一齣—」 〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/yakkan.pdf>〉参照。（平成24（2012）年9月25日一部修正）

こととする⁴。

(参考) (平成 31 (2019) 年 1 月 31 日追加)

・「東京大学医学部法医学教室」

〈<http://ut-forensic.jp/aboutus/history/>〉

・「日本法医学会の歴史」

〈<http://www.jslm.jp/about/pdf/history.pdf#search=%27%E8%AD%A6%E8%A6%96%E5%8C%BB%E5%AD%A6%E6%A0%A1%27>〉

・本 HP 別稿「『無冤録述』検討一斑—江戸及び明治警察史の一齣—」(HP 初載: 平成 22 (2010) 年 9 月 26 日 (日) 初稿作成、逐次改訂中)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsu.pdf>〉

・本 HP 別稿「続・『無冤録述』の初歩的検討—江戸及び明治警察史の一齣—」

(HP 初載: 平成 22 (2010) 年 12 月 6 日 (月) 初稿作成、逐次改訂中)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/muenrokujutsuzoku.pdf>〉

2 関係文献抄

(1) 中原英典氏 (1915～1979) 論説

昭和 49 (1974) 年

・「警視庁御雇外人ウィルヘルム・デーニッツおぼえがき (上) —明治警察史資料 (13) 」「
『警察研究』第 45 巻第 1 号 (昭和 49 年 1 月 10 日刊) 125～134 頁 (デーニッツ, ウィルヘルム: 1838～1912、同氏は蜘蛛の研究者としても著名。例えば、下記サイト参照。)

〈<http://tanatyan.cocolog-nifty.com/blog/2008/10/post-ae55.html>〉、

〈<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%A2%E5%AD%A6>〉

・「警視庁御雇外人ウィルヘルム・デーニッツおぼえがき (中) —明治警察史資料 (13) 」「
『警察研究』第 45 巻第 2 号 (昭和 49 年 2 月 10 日刊) 85～100 頁

・「警視庁御雇外人ウィルヘルム・デーニッツおぼえがき (下・完) —明治警察史資料 (13) 」「
『警察研究』第 45 巻第 3 号 (昭和 49 年 3 月 10 日刊) 97～115 頁

(2) 小関恒雄氏 (1935～) 論説

・「警視庁裁判医学校略史」『犯罪学雑誌』第 46 巻第 2 号 (昭和 55 年 4 月 30 日) 21～29 頁

・「明治初期英米法医学のわが国への紹介」『医学図書館』第 27 巻第 4 号 (昭和 55 年刊) 204～211 頁 (平成 31 年 1 月 29 日追加)

〈https://www.jstage.jst.go.jp/article/igakutoshokan1954/27/4/27_4_204/_pdf〉

・「警視医学校の蔵書印、その他—警視庁裁判医学校略史・補遺—」『犯罪学雑誌』第 58

⁴ 下記「法制史学者著作目録選」参照。(平成 24 年 9 月 25 日追加)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

(3) 『警視庁史稿 上巻』⁵（警視庁蔵版、明治 26 年 9 月 30 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785266>〉

・巻之一 東京警視庁（抄録。（ ）頁は『庁府県警察沿革史 其ノ一』のもの。「 」内は龍頭小見出し、（ ）内は龍頭小見出しなきため要旨）

- ・91（98～99）頁 明治 8（1875）年 9 月 24 日 「裁判医学校創設」
- ・96（104）頁 明治 8 年 12 月 14 日 （裁判医学校教師「デーニッツ」雇用盟約ヲ訂結ス）
- ・98（106）頁 明治 8 年 12 月 27 日 「裁判医学校改称」（⇒警視医学校に）
- ・190（206）頁 明治 11（1878）年 4 月 1 日 （警視医学校ヲ廃シ貸費生徒ヲ東京大学ニ委托ス 事ハ旧警視庁病院ノ部ニ詳見ス）

(4) 『警視庁史稿 下巻』（警視庁蔵版、明治 27 年 3 月 31 日刊）

〈<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785267>〉

・巻之六 医務局（（ ）頁は『庁府県警察沿革史 其ノ二』のもの。「 」内は龍頭小見出し、（ ）内は要旨）

- ・1（91）頁 「第七局創置」（警視病院并ニ警視医学校ノ事務ヲ掌理セシム）

・巻之十四 旧警視病院附旧黴毒病院（抄録。「 」内は龍頭小見出し、（ ）内は龍頭小見出しなきため要旨）

- ・5～6（681）頁 明治 8（1875）年 9 月 23 日 「裁判医学（ママ）創開設」
- ・6（681～682）頁 明治 8 年 9 月 24 日 「裁判医学（ママ）教場開設」
- ・12（688～689）頁 明治 8 年 12 月 27 日 「裁判医学校改称」
- ・14～17（690～693）頁 明治 9（1876）年 1 月 23 日 「警視医学校職務心得并校則」

⁵ 『警視庁史稿 上巻』（警視庁蔵版、明治 26 年 9 月 30 日刊）及び『警視庁史稿 下巻』（警視庁蔵版、明治 27 年 3 月 31 日刊）の翻刻本として、『庁府県警察沿革史 其ノ一（警察研究資料第八輯）』（（警視庁史稿）、内務省警保局、昭和 2 年 3 月 28 日刊）、『庁府県警察沿革史 其ノ二（警察研究資料第九輯）』（（警視庁史稿）、内務省警保局、昭和 2 年 3 月 28 日刊）『庁府県警察沿革史其ノ二附録（警察研究資料第九輯附録）』（（警視庁史稿類別目次、警視庁史稿編年目次）、内務省警保局、昭和 2 年 3 月 28 日刊））がある。同翻刻本は、其ノ一、其ノ二で各通頁になっているが、親本各頁横欄外に付されている巻数、年月日等が省略されているため、検索はいささか不便。ただし、新たに『其ノ二附録』（目次）を付けて、検索に資している。この他、戦後に、同翻刻本の復刻本（『庁府県警察沿革史 其ノ二』（『警視庁史稿』二冊本）、原書房、昭和 48 年 12 月 20 日刊）が刊行されているが、これには、何故か上記附録が復刻されていないことから、検索は極めて難しい。『警視庁史稿』につき「国立国会図書館デジタルコレクション」〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785266>〉、〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/785267>〉参照。（平成 24 年 9 月 25 日、同 29 年 1 月 31 日各一部修正）

- ・ 18 (694) 頁 明治 9 年 3 月 12 日 (墮国人「セレスニー」予科教授採用ノ件)
- ・ 18～19 (695) 頁 明治 9 年 4 月 11 日 (独逸国人「デーニッツ」本校雇用ノ件)
- ・ 24 (700) 頁 明治 10 (1877) 年 2 月 2 日 (「セレスニー」継続雇用ノ件)
- ・ 31～32 (708～710) 頁 明治 10 年 12 月 26 日 「警視医学校規則」
- ・ 33 (710) 頁 明治 11 (1878) 年 4 月 1 日 「警視医学校廃止」
- ・ 19 (695) 〈ママ〉頁 明治 12 (1879) 年 2 月 10 日 (「デーニッツ」解雇)

(5) 『警視庁史 明治編』(警視庁史編さん委員会、昭和 34 年 1 月 1 日刊)

・ 記載なし。

(6) 『東京帝国大学五十年史 上・下冊』(昭和 7 年 11 月 20 日刊)(平成 31 年 1 月 31 日刊)

〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1453584>〉

〈<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1453613>〉

(7) 『東京大学百年史 通史 1』(東京大学、昭和 59 年 1 月刊)

・ 530 頁:「最後に予科への特殊な入学生として、(中略)明治 11 年 3 月の警視庁所管警視医学校生徒 55 名が挙げられる。後者は明治 8 年 9 月創設以来デーニッツが教師となっていたが、この年 4 月同校変則生の卒業後に廃止するに至り、正則生を東京大学医学部⁶に移したものである。」

【附録】明治警察史コーナーHP 項目一覧 (抄) (令和 4 (2022) 年 8 月 7 日追加)

・「法制史学者著作目録選」中「明治警察史コーナー」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/Historian2003.htm>〉

・「松井茂久『警官陶冶篇』研究史抄一本 HP 収載「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』検討資料」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui002.pdf>〉

・「PDF 版松井茂久『警官陶冶篇』(増訂三版、明治 25 (1892) 年 2 月 18 日刊)」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/matsui001.pdf>〉

⁶ 明治 10 (1877) 年 4 月 12 日 東京医学校と東京開成学校が合併、東京大学創立 ⇒明治 19 (1886) 年 3 月 帝国大学令によりに帝国大学に改称。なお、上村直己「東大医学部予科教師アドルフ・グロート」『日独文化交流史研究』2011 年号(日本独学史学会、平成 23 年 11 月刊) 59～102 頁参照。(平成 24 年 9 月 25 日一部修正)

- ・「大森鍾一『直興遺篋抄』—「長男仕官に就き与へたる訓戒の書」—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/omori001.pdf)
- ・「川路大警視青山墓前の頌徳碑検討一斑（碑文全文、付句読点文、書下し文）—故陸軍少将兼大警視正五位勲二等川路君墓表編修副長官従五位重野安繹撰— 明治警察史の一齣—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kawaji002.pdf)
- ・「佐和正関係文献抄—明治警察史の一齣—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawatadashi.pdf)
- ・「坂元純熙、國分友諒両氏の墓所について—中原英典氏のお問いかけを追って—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sakamoto001.pdf)
- ・「国分友諒顕彰碑について（再訂稿）—原田弘先生のお教えに接して—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshohi.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/kokubukenshohi.pdf)
- ・「篠崎五郎関係資料抄—台湾出兵時の徴集隊指揮副長の一人— 明治警察史の一齣—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shinozaki.pdf)
- ・「後藤松吉郎とは誰ぞ—明治警察史・日本統治下台湾警察史の一齣—」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/goto001.pdf)
- ・「裁判医学校乃至警視医学校関係文献一斑—明治警察史の一齣—」（本稿）
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/saiban001.pdf)
- ・「高橋雄豹博士著作目録（再訂稿）」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/takahashi001.pdf)
- ・「田村豊氏著作目録」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/tamura001.pdf)
- ・「中原英典氏明治警察史研究関係著作目録抄（参考）渡辺忠威氏警察史関係文献抄」
[〈https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf〉](https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/nakahara001.pdf)

【関連事項】（令和 4 年 8 月 7 日追加）

- ・法制史学会： [〈https://www.jalha.org/〉](https://www.jalha.org/)
- ・国立国会図書館： [〈https://www.ndl.go.jp/〉](https://www.ndl.go.jp/)
- ・国立国会図書館デジタルコレクション [〈https://dl.ndl.go.jp/〉](https://dl.ndl.go.jp/)
- ・国立国会図書館個人向けデジタル化資料送信サービス（個人送信）（令和 4（2022）年 5 月 19 日開始）
[〈https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html〉](https://www.ndl.go.jp/jp/use/digital_transmission/individuals_index.html)
- ・国立国会図書館次世代デジタルライブラリー（令和 4（2022）年 4 月 1 日追加）
[〈https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/〉](https://lab.ndl.go.jp/service/tsugidigi/)
- ・CiNii: [〈https://ci.nii.ac.jp/〉](https://ci.nii.ac.jp/) ⇒ [〈https://cir.nii.ac.jp/〉](https://cir.nii.ac.jp/)（【[2022] 4/18 更新】CiNii Articles の CiNii Research への統合について）、[〈https://ci.nii.ac.jp/books/〉](https://ci.nii.ac.jp/books/)（了）